

ひびき

女性会連盟ニュース

第23期主題

「共にいてくださる主を信じて」

～信仰と、希望と、愛～

主題聖句：それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。コリントの信徒への手紙一 13章13節

発行：日本福音ルーテル教会女性会連盟 発行者：芳賀美江

クリスマスおめでとうございます
 会長 芳賀 美江

皆さま、それぞれの地でイエス様のご誕生をお祝いしておられることでしょう。2015年も終わりに近づきましたが国内、海外ともに心痛むことが多くあった年でした。国内では7月の猛暑、8月の台風、北関東や東北での



上写真：ナザレ修女会エピファニー館
 下写真：研修会参加者



水害など自然の脅威を感じました。9月には安全保障関連法案が可決され戦争への足音が聞こえてくるように思います。

海外ではIS（イスラム国）による人質殺害やテロが続き大勢の人が殺されました。シリアからの難民の受け入れがヨーロッパでは大きな問題になっています。アフリカでは食物がなく餓死する人々も多くいます。「み心が天で行われるように地上でも行われますように」と切に祈ります。

11月18日から19日まで井の頭公園そばのナザレ修女会で役員研修会が行われました。小勝先生の開会礼拝に始まり熱心な話し合いが行われました。各教区や協力委員からの分かち合いを通して連盟のつながりを感じました。ティータイムや食事の時は楽しそうに話が弾んでいて終了時間も過ぎてしまうほどでした。

第24回総・大会の開催地や持ち方について、総会の持ち越し議案、連盟のこれからのあり方について話し合われました。若い役員も経験されている方も初めての方も連盟への熱い思いが伝わってきました。

それぞれの教区で、研修会で出た意見について話し合って6月の合同役員会に持ち寄ってくださいようお願いいたします。

同封の75周年記念誌をご活用ください。

第11回役員研修会報告

2015.11.18(水)-19(木)

日本聖公会ナザレ修女会エピファニー館
参加者：各教区女性会役員、各協力委員、連盟役員、事務局員

東海教区
信仰を成長させ、証し人として押し出されていくこと、全国ルター宗教改革の記念の活動を支えること、原発・安本法制などの社会問題を考えることを基本方針に、12年前に設立した福祉村を活動の主軸にしています。会報誌はいろいろな教会の関わりを願い編集しています。

東教区
次世代信仰継承、神学校の支援、お互いを支え合うことを基本方針に、顔が見える活動を願いつつ、「東教区女性会の集い」を開催し、東京老人ホームの訪問をします。

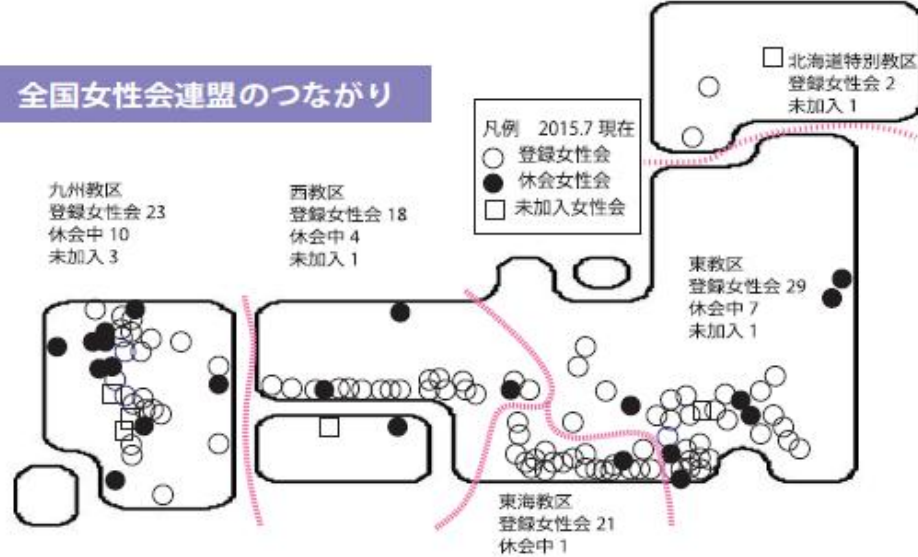
北海道特別教区
北海道は、小さな群れで、各教会の距離が離れていて、気候的にも厳しいけれど、自然豊かな地域環境ですが、それぞれ頑張っています。

協力委員
ACWCの働き
加盟国19カ国からなる祈りの共有を目的とする団体です。東京地区と関西地区で開催の「一日研修会」「リーストコイン」、本部の運営を支える「署名キャンペーン」の活動をし、2月末発行予定の活動報告集は「一日研修会」の講演の内容です。

西教区
高齢化で礼拝出席が精一杯、役員の出退が難しく、動くことができない現実ですが、つながりを大事にし、会長が発信するネットワーク作りをした。各女性会のイベント情報を2ヶ月ごとに発信しています。信仰共同体として、釜ヶ崎、るうてるホーム、TNGのために祈り・支援し、女性会のこれらの働きに若き人々が増し加えられ、共に歩んで行けるよう、その為の努力をし、願っています。

九州教区
高齢化対応・次世代の信仰継承が活動方針で、修養会のジェンダーの学びから、女性である前に人であることを認識し、今後は、一人一人が信仰の歩みを「my story」に結実し、「元気な教会・元気でない教会」を繋げ、証集を完成できるように動きを始めました。シルバープロジェクトの活動の実である「いこいのみぎわ」を紹介。

全国女性会連盟のつながり



■ 連盟会報・ひびき・ホームページによる「つながり」
(1)連盟会報
①152号より各教区の特集ページ(カラー・見開き)を設け、担当教区は下記の順番とする。
2016年春：九州教区、秋：西教区、
2017年春：北海道特別教区、秋：東海教区
2018年春：東教区
②各協力委員の働きの記事を再考
(2)「ひびき」でタイムリーニュースの発信

■ 感謝献金の再考
(1)従来の感謝献金先・献金額の見直し
(2)新しい献金先の掘り起こし
各教区に所属し、信者がその働きを担っている団体、かつキリスト教の精神の上に成り立つ団体の掘り起こしを全国の女性会に調査依頼し、再考する。

■ 次世代への信仰の継承—TNG 支援
(1)TNG 支援
私たち自身の隣人に福音の喜びを伝える時、TNGのグッズ・活動を利用することが、「TNG 支援」になる。
(2)TNG 支援献金の集め方
TNG 献金は支援献金(集まった献金だけを送金)とするが、活動の中心なので予算化し、全国から集まった献金額が不足した時には經常会計から支出する。

■ 震災支援
(1)震災支援を兼ね合同役員会開催予定
2016年6月下旬1泊2日を予定。野口勝彦師に案内をお願いし、被災地訪問、現地の方との交流、合同役員会。
(2)物品販売による震災支援
・パンフレットによる周知案
・ホームページ活用案
・その他(勉強会等)

■ 第24回総・大会(継続審議)
(1)日程・場所・交流の持ち方など
・東海教区にて、1日目大会、2日目総会の1泊2日の日程。
・交流としてグループ討論の時間をもつ。基調講演については以下の2案が出た。
A案 1テーマの基調講演を設定
B案 複数テーマの基調講演を設定
・総・大会に開催地区の青年を招く、もしくは働きを依頼。
・TNG 支援の時間を設ける。
(2)会長選挙の方法
事前に各教区連盟担当役員で話し合いの上会長を選出。総会で承認するとの意見が出た。
(3)1教会の正議員の数：1教会あたりの正議員数の上限を決める方向の意見が出た。

役員研修会に参加して

西教区女性会書記 高橋 典子 (厚狭教会)

私は厚狭教会(山口県山陽小野田市)へは、下関市の日本基督教団小月教会から転籍して二年(受洗から22年)。女性会に入って早んヶ月、え〜!!!そんな声が聞こえてきます。ホントなんか場違いな役職にいるようで申し訳なく思っています。今回女性会連盟の研修会に参加させて頂き、改めて日本福音ルーテル教会(女性会)の素晴らしさを知ることができまして感謝でした。全国(北海道特別教区、東教区、東海教区、西教区、九州教区)からの役員さんの集まりで、色々な意見交換の中、其々にこれからの女性会連盟の在り方、各教区女性会の在り方、様々な問題点についての解決方法、次世代への信仰継承、教区間・各教会間の女性会の繋がりを持つためにどの様に進めていくべきか?等真剣に話し合うことができたことはとても素晴らしいなあ!と思いました。また初めてお会いする人達ばかりでしたが気さくに話が弾みとても楽しい一時でした。最初は東京への一人旅は初めてなので少し不安で、尻込みしていたのですが、参加してとても良かったです。それに、ナザレ修女会(エピファニー館)での宿泊、聖公会での礼拝と初めてづくしでしたし、懐かしい方々とも久しぶりにお会いできて感謝でした。これからの任期終わりまで皆様と共に頑張れそうな力や励ましを頂きました。これも一重に神様からのお導きとお恵みだと感謝します。

魅力的な女性会に・・

東海教区女性会会計 堀 育美 (なごや希望教会)

「出来ないことを支え、励まし合う」小勝奈保子牧師のメッセージから始まった第11回役員研修会。ナザレ修女会エピファニー館に各教区役員(北海道、東、東海、西、九州)協力委員の25名が集まりました。自己紹介が終わった後、総大会反省、各教区活動方針の分かち合いへと議題が進んでいく中「女性会を考える時なのでは」と投げかけられた言葉。必要なのか。意義は…。「宣教する団体ではないか」「女性だから出来る支援がありそれが女性会存在の意義ではないか」また、「次世代信仰継承支援は課せられた活動の一つとしてお支えしていこう」など姉妹たちからの熱い意見続出。主によって召し集められた方々との交わりの中で、たくさん学ぶことができ、みのりある二日間でした。「女性会って…」疑問をいただいている方々に伝えていかななくては、これが私に与えられた恵み。会員が減っている今、魅力的な女性会に、入りたいな〜って思う女性会になるように。たくさんの女性で喜びをもって支え、活動していけますように。共にいてくださる主を信じて…。



第11回役員研修会に参加して

東教区女性会文書 保坂 和子 (東京教会)

母にお任せでいた私が女性会に参加し始めたのは、50代後半。パソコンも思うように使えず、会のことを勉強するようと先輩から資料を頂く始末の新米役員の私。今回、三鷹の修女会での役員研修会に出席し、小勝先生より「柔和な心で重荷を担う」のお話を伺いました。「できることと、できないことをはっきりさせる。できることを精一杯やるのがいい。できることを求めるのでなく、できないことを認めていく。」「できない私を主の前に出していく。イエス様が私たちの重荷を担ってください。柔和な霊に支配して頂く必要がある。」「女性会では、共に重荷を担う。共に生きる喜び、できないことを知り支え合おう。」というメッセージを頂きました。「できることを精一杯やるのがいい。」というメッセージに少し心が軽くなりました。その後、今後の活動計画などの話し合いが行われましたが、経験や地区により様々な考えがあることがわかり、良い経験になりました。会の最後に「置かれた場所で自分にふさわしく歩むことが出来ますように。」と皆さんと共に祈りました。

